令和5年度第1回 南区地域包括ケアシステム推進会議 議事録

1 日時 令和5年(2023年)8月16日(水) 14時から

2 場所 アスパル富合 研修室

3 出席委員(敬称略)

林 茂、岡崎 信也、濱崎 ももよ、今村 和八、関根 義臣、神原 ひろ子、原口 孝美、
渡邊 伸治(宮崎 義隆代理)、佐藤 智子(平江 義廣代理)、金田 雅晴、尺一 賢昌、伊佐坂 光輝、
宮澤 矢良、上田 恵美子、田中 智寛、重元 弥生(楠本 街代理)、野口 輝子、村田 美妃、西堀 拓也、
西岡 裕二、宮本 秀美

4 会長・副会長選任

南区地域包括ケアシステム推進会議設置要綱第4条第1項の規定に基づき、委員の互選により、会長に林委員、副会長に岡崎委員を選任。

5 議事

(1) 南区地域包括ケアシステム推進の経過について

(2) 南区におけるこれまでの取組について

(3) 南区における今年度の取組について

6 議事録等(要旨)

○事務局

会議資料の説明

- ・南区地域包括ケアシステム推進の経過について
- ・南区におけるこれまでの取組について

○林会長

南区の取組方針の4つの項目について質問したいと思うが、まず取組方針1の介護予防事業について、質問はないか。

それぞれの地域で違うと思うので、各ささえりあから、現状とか課題があれば話していただきたい。

○地域包括支援センター(城南) 宮本委員

老人クラブの活動状況については、城南圏域においてもやはり参加者も少なくなっていると聞いている。老人クラブに直接介入することは少ないが、高齢者のサロンには、月に1回から4回程定期的に支援しているところや、ご自分たちで運営をしているところもあり様々な状況。今年度に入りコロナ禍が緩和されてから「活動を再開するので」と支援の依頼もあっている。

くまもと元気くらぶにおいては、当圏域には登録団体はないが、似たような活動をしている団体はあり支援している。地域支え合い型サービス(通所B)も立ち上がってはいないが、随時情報を提供している。「申請するまでもなく自分たちでしているからいい」というような声もある。

人生会議については、今年度、ささえりあ富合とささえりあ城南が重点地域として関わっており、住民の方々や専門職の方を対象にセミナーを随時開催している。

認知症サポーター養成講座に関するところで、隈庄小学校にて、PTAや地元の団体、ボランティアなど、いろんな関係者の方々に関わってもらい、毎年開催している。今年度も、有志の方々がつくったDVDを児童にも見てもらい実施する予定。ほかの小学校へも、声かけをしている。

○地域包括支援センター（天明）西岡委員

天明圏域では、コロナ禍の間、老人クラブの活動状況については、地域ごとの動きを会長さんから情報提供いただきながら把握に努めてきたが、会員数は若干減ってきている。

当圏域は高齢化率の高い地域でもあるので、参加する方もコロナ禍で用心して3年間ほど活動中止という状況が続いていた。5類に移行してからは、老人会、自治会を中心にした活動が再開している。

この資料で紹介されているような、地域支え合い型サービス（通所B）の登録をしている団体も出てきているし、くまもと元気くらぶに該当するほど人数を集めて毎週百歳体操をしている校区も出てきている。

活動が活発になっていくよう生活支援コーディネーターが中心となりサポートをしている。当圏域には4校区あるが、特に、中緑校区では百歳体操を毎週取り組んでいる。奥古閑校区でも一つの団体が実施しており、今回の資料ではまだ具体的な名称等は上がってはきていないが、来年度の実績報告では活動報告ができると思う。

○地域包括支援センター（飽田）西堀委員

飽田圏域の老人クラブの活動状況は、15町内ある中で11か所立ち上がっていたが、コロナ禍の影響で活動を自粛していた。令和4年度は9か所だが、やはりコロナ禍の影響がある。また、次の担い手がいなくて、解散したという状況がある。

高齢者サロンの活動状況は、この表では9か所とあるが、今年度に入り2か所が新規で立ち上がっている。新型コロナウイルス感染症の流行で開催出来てないところが2か所ある。

くまもと元気クラブは、7か所で活動している。飽田東校区の砂原は週1回百歳体操をしているが、補助金を貰わず実施している。補助金申請の手続きが煩雑だということで、住民主体で実施しているところもある。残りの6か所は補助金を貰って、週1回活動している。これは地域支え合い型サービス（通所B）の活動も含めた活動状況の数、それを含めて7か所、今活動している。

○地域包括支援センター（熊本南）村田委員

老人クラブについては、ほかの圏域と同様に数も減っているのも、課題も同じような状況だと思っている。

高齢者サロン、いきいきサロンについては、37か所で開催されている。今年度、事業所からの派遣が再開となり、様々な事業所がサロンの支援をしており活動内容も充実してきている。

くまもと元気くらぶは、11か所で開催しており、令和4年度にも2団体新規に立ち上がっている。「毎週、体操しているが、飽きてくるなあ」という声もあり、生活支援コーディネーターが支援している。また年2回、リハ職の体力測定の支援も入ることが出来るので、評価もしながら、継続できるような支援もしているところ。資料の上から2番目の日吉東3町内げんきクラブは、令和3年から中止、廃止となったように書いてあるが、5ページの地域支え合い型サービス（通所B）にステップアップして、

上近見健康カフェと名前を変えて継続し、補助金を申請している。元気カフェは当圏域では2か所立ち上がっており、ここはコロナ禍の中でも体操を続けたり安否確認の連絡を密にとったり継続している。

○地域包括支援センター(幸田) 野口委員

ささえりあ幸田は、田迎、田迎西、田迎南、御幸の4校区で、高齢者人口が7,500人の圏域を担当している。

老人クラブの活動では、集っての活動は難しいところがあったが、グランドゴルフだけは、公園に集まって実施しているところが多少見受けられた。

高齢者サロンの方は、当圏域内に19町内あるが、様々な工夫をしながら継続している。コロナ禍で活動量が減ったことにより「体力が落ちたなあ」「このままじゃいかんなあ」という声が地域からあがってくるようになった。コロナ禍の良かった点は、「みんなで何か活動して楽しさがなくて弱ってしまう、みんなで話をすることが大事なのだ」と自覚でき、それによりもう一度活性化し盛り返している現状がある。とても心強く感じている。期待に応えられるように医療機関のリハ職に協力をお願いし、業務の合間にサロンへ出向き、いろんな予防の方法等を提供してもらおう機会が増えたと実感している。

くまもと元気くらぶについては、今年度新しく御幸校区でたちあがった。自ら体験し自発的に取り組み、とても嬉しく感じた。

地域支え合い型サービス(通所B)では、圏域内に事業者がたくさんあり登録はない。それぞれの町内毎にいろんな情報が飛び交っており、校区・町内毎に連携を取り活動が活発になってきていると感じている。

○地域包括支援センター(富合) 楠本代理

老人クラブの活動状況については、ささえりあ富合圏域は、1校区・22地区あり、令和4年で14か所だが、現状は、老人クラブの連盟からは脱退しても継続的に活動している地区もある。活動している団体は、高齢化が進んでおり、新規加入者が減ってきている現状がある。新規加入者を増やすために、地域に回覧板をまわしたり、活動の状況を報告しているとのことだった。

高齢者サロンの活動状況については、現在15地区にサロンがあり、コロナ禍においては、活動が困難な状況であった。去年の9月には、新規でサロンの立ち上げがあったり、この活動を今後も継続したいという方が集まり、サロンの現状や課題の情報共有として冊子を作ってみたりとか、横の繋がりができている。また今年度、ささえりあ富合のLINEで、サロンの活動状況を写真等も交え報告してもらい、皆に発信して横のつながりの強化を働きかけているところ。現在は、定期的に活動出来ており内容の充実を図っている。

くまもと元気くらぶは、現在当圏域では活動がない。地域支え合い型サービス(通所B)は、富合ば支え合い隊が活動をしている。内容は脳の健康教室で、脳トレの活動をした後に体操等をしている。そのなかで、地域の方々が自分たちでサポーターになりたい方にはサポーター側に回ってもらったり、少し物忘れがあるという方は、くもんの教材の方に参加するなど、独自で活動を実施している。こちらの活動に関しても、高齢化が進み参加者の体力低下がみられている。要介護認定を受けられた方もいるが、この会に参加したいと自分のペースで参加している方もいる。

○林会長

報告をしていただいたが、老人クラブがだんだんと縮小しているということと、高齢者サロンと熊本

市から補助金を出しているくまもと元気くらぶとか、地域支え合い型サービスについて、事務局からはいかがか。

○事務局

今年度、幸田圏域や飽田圏域でも新たな団体が増えており、コロナ禍が収束して地域の活動も活発になってきている。

○林会長

地域によって人口とかいろいろ違いがあると思う。10名以上で毎週という、そのハードルをもう少し柔軟に考えてもらいたいと思うが、この会議で出していいのか。

○事務局

こういうことで課題があると出た意見は、1層会議、庁内推進会議等へ、あげていきたいと思う。

○林会長

自治協議会の方々から、何かご意見とかご質問はないか。

○校区自治協議会(飽田圏域) 伊佐坂委員

私も、今年初めて老人クラブに入った。今年70歳で1番若い。老人クラブの活動が減ってきているというのは事実で、老人自体が高齢化して、なかなかその活動が出来ないというのもあり、入ってくる人が少ない。老人クラブの人たちは地域の清掃活動、公園の管理、グランドゴルフとかいろんな活動をしており、春と秋の一斉清掃とかの行事には必ず老人クラブが主で動いている。その中で、くまもと元気くらぶ活動の捉え方として、先ほど、会長が言われたように、10名以上であるとか、半数が65歳以上であるとか、市が推奨する運動とかというようなことを大きく捉えて、例えばグラウンドゴルフなどもそういった活動に、取り込めないのか。運動から考えると、百歳体操よりもそちらのほうが、現実味を帯びるのかなと思う。私も今日行ってきたが、1時間半から2時間近くグランドで汗だくになって運動している。そのような活動もくまもと元気くらぶの活動として認めてもらえるならば、また、それに対して市の補助金があれば、老人クラブの活動もまた一層盛んになってくるのではないかなと思う。その考え方を反映できれば、元気がもらえるのかなと思ったので、行政に考えてもらえればなと提案させてもらう。

○林会長

その他ないか。

地域支え合い型サービス(通所B)を1回3時間以上と書いてあるが、その辺も条件が厳しいというのがあり普及しないのか、また、現場の民生委員からの意見、質問はないのか。この辺のところを今回の2層会議の意見として取上げて、市と協議していただくということでいいのか。

○事務局

今回いろいろな意見が出ると思うが、出た意見を集約し、市全体としての庁内推進会議に、こういう課題や現状があったということを伝えながら、市全体で情報の共有を行い、できる部分についてはきち

んとした形で皆さんに、報告していきたい。

○林会長

では、取組方針2の医療介護連携分野に関する普及啓発ということで、今人生会議セミナーをやっているが、皆さんは、人生会議をご存じか。今までいろいろイベントとか行っているが、参加された方は手を挙げてもらいたい。

セミナーとか人生会議の日とかまだ余り参加していないという感じですかね。啓発を今後どうしていくのか。今のところ重点区域ということで、最初の年が、天明・飽田、次が幸田・熊本南、そして今年度は、城南・富合という形で順番に進めていて、少しずつ認知度が上がっているかと思う。今度の南区人生会議の日が、11月25日の土曜日に火の君文化ホールで行われるので、皆さん方のご協力もお願いしたい。

では、取組方針3の認知症に関する正しい知識の普及ということで、認知症サポーター養成講座は、結構頑張っているようだが、何かご意見とかご質問等はないか。よろしいか。

では、次の取組方針4の公共交通空白地域の高齢者ということで、デマンドタクシーについては、今は天明地域で一番活発にやっているとと思うが、実際やったところで、ささえりあ天明からは、コメントはあるか。

○地域包括支援センター(天明) 西岡委員

天明圏域では、昨年末からチョイソコくまもと天明ということでタクシーが回るようになっていて、主に高齢者の方の利用が多い。始まった当初には、タクシーが2台あり地域の方も予約をして利用しているという話を伺っていた。今年度は車が1台となり予約がとりづらくなっていると聞いている。またタクシーは、大きめのワゴン車両で、自分で乗り降りできることが基本になっているが、車の運転をやめたりとか、いわゆる介護保険の認定にかかるような高齢者の方のニーズが高いため、若干車高が高めで乗り降りが難しいといった方もおられると伺っている。また、モデル地域が一旦終了したところで、タクシーの乗り合い場所が減少しており、そういうところも、まちづくりセンターを中心に交渉してもらっていると伺っている。また、より乗りやすい場所があるといいなという意見は伺っている。現状としてはやはり、路線バスが廃止になっている地域もあるので、この乗合タクシーが始まったというのは、高齢者の方々にとっては、非常に助けられた面は大きいと思うが、もう少し工夫してもらえると、利用の方も増えてくるのではないかと思う。

○林会長

今の話に関して、行政の方からは何かないか。

○まちづくりセンター(天明)

ささえりあ天明のセンター長から説明があった通りの状況で、ステップをつけて乗りやすくしたり、あとは予約が込み合う時間と病院に行きたい時間が同じような時間帯が多いようである。2週間前から予約ができるので、早めの予約を勧めている。一方で全体数として、1日上限でもう少し乗れるというところがあり、昨年度途中から、もっと多く乗っていただけるかと2台用意したが、むしろ試行期間を延ばして1台体制で様子を見ていきたいということもあり、本庁の移動円滑推進課で今後の交通手段として様子を見ていくところ。また今後は、南区管内の飽田地区とか西区の一部のほうも入れ

ながら試験をやっていきたいと進めているところである。

○林会長

交通手段に関して本当に皆さん大変困っておられる。南区の中でも地域によってすごく差があると思う。

富合の利用者が、4名と2名でなぜこんなに少ないのかとか、どうすればもう少し増えるのかとか、民生委員や自治協議会の皆さん方とかとの詰めた話合いとかは、やられているのか。現場の声はないのか。乗り合いタクシーのこととかは、まちづくりセンターが主体となって取り組んでいるということになるのか。

○区長

本庁の移動円滑推進課が主体で、まちづくりセンターは住民の方々の支援の役割である。高齢者の方々の公共交通の空白地域を埋めようというところで、本庁の都市整備局がこのデマンドタクシーだけではなく、市電延伸とか様々な方向でやっている。

林会長が言われるように、各地域で、率直な意見をいただけたほうが私どもも担当局に率直に言えるのではないかなど。私も飽田のほうにこの間説明会に行かせてもらい、様々な意見が出ていた。高齢者の方々の、いわゆる公共交通の空白地域を埋められるのかというところは、地域の方々も非常に疑問が残られるところだと思っている。区を預かっている私の立場からすると、皆様方から、これは何も都市整備局だけがやることではなくて、高齢者対策・福祉対策の側面があるのでしょうか、健康福祉局あたりが、お金を出してもいいのではないかと、そういうご意見をいただければと思う。どうしても地域包括ケアの会議になりますので、主体が健康福祉局となり縦割りになっていますのでつながりが悪いところではありますが、要望ができるのではないかと、公共の空白というよりも、高齢者福祉の方で主体となって考えてもいいのではないかと、いろいろな意見を出していただければありがたいと思う。

○林会長

この会議はすごく大事な会議だと思う。地域包括ケアシステムというのは高齢者だけではなく、子供からお年寄りまでというのと、まちづくり等たくさん課題があると思うが、今までなかなか伝わっていかなかったし、それをつなぐ役目というのが皆さん方になってくるかと思うので、ぜひとも意見をいろいろ言っていただきながら、ぜひ本庁の方にちゃんと伝えて、南区ではこういう要望がありますというのを出していききたいと思う。

南区における今年度の取組があるので、また皆さんのご意見をいただきたいと思うのでよろしくお願いしたい。

○事務局

会議資料の説明

- ・南区における今年度の取組について

○林会長

まず、取組方針1について、先ほど、介護予防事業についてということであったが、補助金事業のくまもと元気くらぶや地域支え合い型サービスの条件のこととか、実務者会議で検討してもらい本庁に伝えていければと思うが、田中委員から地域リハとして何かコメントはないか。

○南区地域包括ケアシステム推進会議実務者会議 田中委員

こちらに記載がある各事業で、熊本地域リハビリテーション広域支援センターとして熊本県から委託を受けており、事務担当窓口をしている。くまもと元気くらぶ、地域支え合い型サービス（通所B）等へ直接的に支援を行ったりしている。また熊本県の委託で地域密着リハビリテーションセンターが、南区内に9か所医療機関や介護予防事業所内にあり、そちらのリハ職の派遣調整も行っている。実務者会議等を通して南区の活動を、福祉課とともに検討している立場である。

先ほどのくまもと元気くらぶ等についてのご意見だが、厚生労働省は、住民の皆さんが主体的に集まってできる通いの場、介護予防の活動というのを推進していこうというところ。熊本市ではなかなか具体的に踏み出さない方々に、金銭的な支援であったり、私たちリハビリの専門職が現場に赴いて支援をするようなところを活動の一環として始まったのが起こりのところ。

行政の事業なので、事業の成果を見るというところでも条件が厳しくなっているというのも確かに声としていただくところで、例えば手続の煩雑さだったり、保険の手続が難しかったりとか、基本的な考え方として元気くらぶが必ずいいかというところでもなかつたりするわけで、現在いろいろな地域でもサロン活動をされる中で、皆さんが介護予防と思わずともいろいろな形で集まって介護予防の活動をされているのが、先ほどから紹介があったグランドゴルフであったり、いろんなところで行われているのが実態なのかなというふうに考えている。どうしても制度としてやる以上、いろいろな条件がつくというのは現実としてはあるところなのかなと思っているところ。今年度、区の方で実務者会議を開催されるということなので、地域密着リハビリテーションセンターなどと一緒に現状を把握させてもらい、こちらの2層会議であったり、1層会議に上申していけるような用意がしていければと考えている。

5類に移行して、地域の活動がかなり活発になってきているというのは事実で、私どものほうで派遣調整をしているが、かなり調整の業務自体も煩雑になってきている。来年度が、介護保険、医療保険の大きな改定の年にもなり、今後の介護予防の在り方であったりとか、新たな事業体系とかも出来てくるのかなと考えている。いろいろなことが複雑だなというのは正直思っている。くまもと元気くらぶと地域支え合い型サービスの違いは何なのかとか、そこでやらないとサロンは駄目なのかとか、制度の整理と、住民の皆さんの理解を促してもらうような行政の働きかけというところも大事なポイントになってくるというのは、日々調整をしながら感じているところ。

○林会長

今の日本は、国、県、市という縦割りで、現場の皆さん方の本当のニーズとギャップがあると思う。税金を使うので、有効にお金を使いながら、皆さんが元気になれる仕組みをというのを考えていければと考えているので、皆さん方の意見を聞きながら、この会としても進めていきたいと思う。

区長それでよろしいか。

○区長

はい。

○林会長

他にご意見はないか。

○校区自治協議会(城南圏域) 上田委員

私は、90歳の介護度4になった母を自宅で見ている。先日2か月ほど入院をして、口から食べれなくなり点滴だけになったので、2、3か月しかもたないだろうと言われて、葬儀社も予約に行ったりとか動き回っていたが、ふと入院している病院の先生が、どうしてこんなに食べないのだろう、どうしてこんな寝てばかりいるのだろうと精神科の先生に相談をされて、老人性うつ疑いがあるのではないかと、そちらの治療をしたら食べれるようになり退院出来て今自宅に帰ってきた。老人性うつというのを初めて聞いた。全てのことに意欲的になれないところは、老人性うつではないかなと思われるが、介護している私たちが全然それを知らない状況だったので、いろんな場面でそういうことがあるということもお知らせしていただきたいと思う。

城南町に住んでいるので、バスの便が非常に悪くて、自分が免許を返納するという事は考えられない。車を運転しないなら本当に困るところに住んでいるので、それを考えたときに、自分が免許を返納したときにどうするだろうと思ったら、シニアカーを買うかなあと思った。シニアカーで、自転車よりは安全かもしれないと思う、シニアカーに対しての補助とかはないのかお聞きしたい。また、城南町でもしばらくはそういうタクシーとかバスが走ったりしていたが、乗る人がいなくて、廃止になった。城南町が合併する前にも、補助金がかかり出て、城南町から川尻駅ぐらいまで行っているバスがあったがそれも乗る人が少なくて、廃止ということがあった。本当に車社会なのだ。その中でのバスとかそういうのについては、もう少し詰めた話し合いが必要なのではないか。

○事務局

介護認定の程度によっては、いろんな方法、補助制度というのはあるのですけれども、介護認定がない場合については、また個別にご相談いただきたい。

○林会長

公共交通のところにも触れられたが、富合でも、患者さんからいつもそのような話を聞いていて、免許返納のことも、高齢で認知があったりして私たちも迷う所だが、行政としてもその辺は考えながらいろんなことを手を打っておられるが、うまく現場と結びついていないというところもあるのではないか。

今後の課題として、皆さん方から意見をいただきたい。皆さん方がある意味では代表者になるわけだし、また、言いくければささえりあやまちづくりセンターを通して、いろいろ意見をいただきながら進めていければと思う。

○校区自治協議会(飽田圏域) 伊佐坂委員

飽田のほうで、まちづくりセンターの所長も含め乗り合いタクシーの会議をした。1番問題だったのは、高齢者がどこまで歩いていけるかという、要するに、停留所を自分の家の前に出来ないかという要望があった。しかし、市役所からは、国道、県道、市道、町道に止められる場所はないだとか、一般の交通を邪魔するような形にならないかとか、という答えがあった。停留所は公共施設の前や公民館の前とかで限定されてきた。もっと、使う側の目線で考えてもらいたい。そうすれば高齢者の人たちの利用はどんどん増えてくるのではないかと思った。どのような取組をするのかということだと思う。うちの地

域で一般交通の邪魔するような道路はない。要望者側の意見を聞いてもらえると、公共交通の乗り合いタクシーというのは、もっともっと利便性は出てくると思っている。

○林会長

取組方針4のところは、すごく複雑である。市としてもいろんな絡みがあると思うので、そういう意味では、実務者会議も何かつくっていく必要があるのかと感じられたが、今日の会議を踏まえて、行政のほうとも検討しながら、会としての今後の取組も考えていきたいと思う。

○熊本市歯科医師会 岡崎委員

ずっと話を聞かせてもらい、乗り合いタクシーに関してもそうだが、全部その地域で頑張られているのが見受けられる。ここではこうしているというのは必要ではあると思うが、もう少し、隣の人、隣の地域の力を借り合って、一つの勉強会や講習会をするにしても、何の講習会にも同じ勉強会にも行けるとそういうふうな働きかけもあってもいいのではないかなと思う。乗り合いタクシーも、ここではこうしてるというのも必要だけど、この場所だけというだけではなくて、ここまでいけるのではないかとか、1キロ範囲をぐるぐる回るとかではなくて、隣までいけば、5キロの範囲を超える範囲をぐるぐる回るとか、そういうふうなことも少し考えて、もっと全体的に動けるものをつくっていったらいいのではないかなと私は思う。

歯科の訪問診療で携わっているが、16キロ範囲というのがある。直線で、16キロ以内の所に訪問診療は行くことができ、市内のまち中まで全部網羅している。ただ、16キロ範囲に歯科医院がないところもある。そういうところは、訪問診療に行けない。こちらでは歯科医院もあるので、訪問診療、皆さんの対応とかそういうところに関して、従事できる状態もある。皆さんも、その地域だけではなくて、全体的に見た事業というのを少し起こしてほしいなと思った。

○熊本市民生委員児童委員協議会 関根委員

くまもと元気くらぶのことがいろいろ出ていたが、南3はとても多い。南4もこれだけある。南1、2、5、6にはない。この差は何なのか。私の地域は御幸校区だが、グラウンドゴルフを私の家の前で毎日、冬は8時ぐらいから、夏は6時からやっている。以前は、老人クラブで150名ぐらい集まって町内のグラウンドゴルフをしていた。くまもと元気くらぶも御幸校区に一つ、ささえりあのおかげで活動を始めたようだが、この差は何なのかというのをわかれば教えてもらいたい。

○林会長

私が思うに、城南、富合は後で合併したので、くまもと元気くらぶに馴染めてなかったのかと思うがいかがか。

○事務局

くまもと元気くらぶの現状として、熊本南で多いのはやはり公共の交通機関が整っており、その集まる場所まで公共の交通機関で行くことができるということがある。昨年度、ささえりあ天明の運営協議会に天明まちづくりセンター所長と参加して、チョイソコ天明の話があった際に、今後そういう公共交通機関ではなくて、こういうのを活用したものがないだろうか、地域から課題として挙がったので、検討していきたいと思っている。

○地域包括支援センター(幸田) 野口委員

関根会長がおられる御幸校区を担当しているささえりあ幸田です。くまもと元気くらぶの対象要件として、市が推奨する運動というのが入っており、グランドゴルフは対象にならないというところ。それから事務手続は、熊本市も歩み寄ってくれていろんなお手伝いができるような体制をとってくれているが、そこが難航してくまもと元気くらぶの立ち上げが出来ていない状況があった。

市が推奨する運動でなくても活動を認めてもらえないかということも、それによっては、今後広がるのではないかなど。現状では、認定してもらえないということかと思う。

○南区地域包括ケアシステム推進会議実務者会議 田中委員

くまもと元気くらぶの立ち上げを当初から支援させてもらっているが、なぜ市が推奨する運動が入っているかというところ、この集まりについては、住民主体で取り組む介護予防を行うことを優先的に考えている団体だと認識いただければと思う。

その中で、くまもと元気クラブが立ち上がった当初は、全国的にも介護予防に効果があるといういきいき百歳体操に取り組む団体を、くまもと元気クラブとして認めていた。熊本市が推奨する運動というところで、現在いきいき百歳体操だけではなくて、四つ五つぐらいまで増えているかと思う。グランドゴルフは介護予防の効果が無いということではなくて、介護予防を中心に取り組むくまもと元気くらぶという集まりは、介護予防に効果があると熊本市が推奨している体操をしているかというところで認識いただければと思う。くまもと元気くらぶが、必ずしも絶対的に正しいということではないし、そこは住民の皆さんがどうやって主体的に集まって、この介護予防や閉じこもり予防などに取り組むかというところのほうが優先なのかなど考えて支援をさせていただいている。

○林会長

くまもと元気くらぶの定義も難しいと思うがこの会議で発信していければと思う。

○熊本市 8020 健康づくりの会 神原委員

8020 健康づくりの会のリーフレットをお配りしているので後ほどご確認いただきたい。先程から、5類に移行になり活動が活発になってきたという話があるが、8020 健康づくりの会でもイベント等を少しずつ開催していこうかなという段階。地域でイベントがある際にはお声かけいただきたい、片隅でいいのでブースをいただければそこで啓発活動をさせていただきたい。

○林会長

人生会議をやっているが、死ぬまで口から食べるということの大事さというのを、岡崎先生もおられますし、8020 健康づくりの会、食生活改善推進員協議会のほうとも連携しながら、口から食べるということを南区の中でももう少し浸透させていければなと思っている。

今後いろんなイベントとかあるが、皆さん方と協力しながら、全てが地域包括ケアということにつながっていくと思うので、よろしくお願ひしたい。

○事務局

それでは、次第6その他に移りますけれども、議事以外のことで、皆様から何かご意見やご提案、ありませんでしょうか。

(なし)

以上をもちまして、令和5年度第1回 南区地域包括ケアシステム推進会議を閉会いたします。